

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標 (略「学校経営」参照)

2 評価する領域・分野	◇商業部		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>商業に関係する生徒及び保護者の評価「あてはまる」の結果 ※ () 内は昨年度結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の興味・関心、希望や能力にあった選択授業や少人数授業を行っている。 生徒 73%(83%) 保護者 67%(63%) ・子どもが意欲的に取り組むように授業の工夫をしている。 保護者 77%(74%) ・補習等を通して、一人一人の能力に応じた指導を行っている。 生徒 82%(80%) 保護者 75%(72%) ・生徒の資格取得のための指導がきめ細かく行われている。 生徒 97%(96%) 保護者 89%(92%) ・外部講師の講演や様々な体験活動など授業以外の学習の機会が多い。 生徒 87%(91%) 保護者 76%(80%) ・高校生としてのマナーや社会規範、身だしなみ指導の徹底を図っている。 生徒 95%(96%) 保護者 95%(96%) ・教師は、専門的知識が豊富であり、授業内容について信頼できる。 生徒 92%(97%) 保護者 86%(90%) ・課題研究の内容は自分にとって有意義である。(3年生のみ回答) 生徒 76% <p>上記の結果より、概ね取り組みに対する理解が得られている。</p>		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「質実剛健・明朗闊達」の校訓のもと、誠実、勤勉で豊かな人間性を育成するために、授業や検定取得、地域連携など、さまざまな取り組みを通して生徒一人一人に達成感や充実感を与えるとともに、望ましい勤労観・職業観を育成する。 		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・商業部を中心としたコース別組織 		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1)各コースが目標とする全商検定取得率80%の達成と高度な検定試験取得者の増加 (2)土岐商ショップ、地域情報提供サイト「TiS」の運営 (3)グローバルマインドを育成	(1)具体的な達成目標を立て、取得率から評価 (2)地域との連携状況から評価 (3)取り組みに対する評価(自己評価・アンケート・感想)		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
(1)各コースで目標とする検定試験合格に向けての取り組み (2)土岐商ショップの出店、地域情報提供サイトの運営	(1) 検定取得状況 (2) 地域との連携状況	A ② C D A B ③ D	
11 成果・課題	○「全商検定3種目以上1級合格者100名！」を目標にここ数年取り組んできた。今年度の卒業生における全商3種目以上1級合格者は110名と2年連続で目標を達成することができた。生徒たちはよく努力し成果を挙げた。 今年度卒業生、各コースの目標とする全商検定1級取得率は以下の通りである。 簿記 会計コース 85.5% 商経 マーケティングコース 66.7% 情処 ビジネス情報科 ビ情部門 65.6% プログラミング部門 56.3% 英語 コミュニケーションコース 37.0%		総合評価 A ② C D
	今年度の高度検定試験の合格数は、応用情報技術者試験1名、基本情報技術者試験8名、セキュリティマネジメント3名、日商簿記検定1級1名、全経簿記検定上級2		

	<p>名、日商簿記検定2級77名、日商リテールマーケティング検定2級13名、実用英語2級4名であった。生徒が目標を持って努力した結果といえる。</p> <p>課題としては、高度資格は昨年度より良い結果となっているが、まだ各コースが目標とする全商検定取得率80%を達成できていないので、今後も基礎学力や知識をつけること、検定を取得することとその取り組みの意義を理解させながら、粘り強い指導を継続する。</p> <p>○地域との連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のイベントにおける土岐商ショップ等の活動 <p>土岐商工会議所をはじめとして地域の方々の協力を得て、地域の様々なイベントに土岐商ショップを出店し、物品の販売を行っている。JRさわやかウォーキングや東濃道の駅物産展など年5回地域のイベントに出店。生徒は、準備から販売実習、片付けを通し、イベントの担当者やお客様、地域の方々とコミュニケーションをはかった。</p> <p>また、南陵祭文化の部で昨年度に続いて東日本大震災復興支援販売会を一般社団法人「希望の環」のご協力を得ながら開催した。販売会では課題研究の授業で復興の様子などを各自で調べたものを模造紙に取りまとめたものを掲示し、よりご協力いただけるように工夫して実施した。地域のイベントを盛り上げるために物品販売等の協力をする以外に、自分たちの活動を他県の復興に繋げることができると学べた。今後もより多くの生徒に、物品販売以外でも地域に貢献できるよう、地域の方々が必要としていることを察知し応えていきたい。</p> ・地域情報提供サイト「TiS」の運営 <p>地元企業である(有)シースリー様のご協力のもと、地域情報提供サイト「TiS (Tokisho info Street)」の運営を一昨年度から行っている。現在、地域の事業所553件の魅力を発信している。全校生徒が営業マンとなり、1人1件の事業所情報を収集することを、今年度1年生に対しても行った。</p> <p>魅力的なサイトを目指し、シースリー様から担当者を招き、WordPressやCMSについての講義も行っており、より魅力的なサイト運営に向けて、生徒主体でアイデア出し継続して取り組んでいく。</p> 	
--	--	--

12 来年度に向けての改善方策案

- (1) 全商主催の検定試験に合格をさせ、その基礎知識や技術をきちんと身に付けさせたい。変化の激しいビジネス社会の中で生き抜いていくためには、基礎力、そしてその基礎力をベースに自ら学び続け、変化に対応できる力を身に付けさせることが必要である。高度な検定試験取得も全て基礎力が身に付いていることである。ビジネス社会における簿記、情報処理、マーケティング、英語等の力の有用性をきちんと理解させ、自ら意欲を持って学習に取り組めるようにしたい。来年度も、全商検定3種目以上1級合格者100名を目標に、授業の改善・工夫および必要に応じた補習の充実を、商業科全体で図っていきたい。
 - (2) 3年生課題研究では「地域貢献」をテーマに取り組みを続けている。新企画を起こすというよりは、地域に根差す商業高校生として、既存の地域資源を見直し情報発信をしたり、地域の方々がやっていたらいいことを手伝い、盛り上げていく活動をするところこそ、人やモノを繋ぎコーディネートする商業の役割と地域を担う必要とされる人材への第一歩ではないかと考え取り組んでいる。その課題研究を通じて、「地域貢献」をテーマに、生徒全員が自ら考え、課題を設定し、その解決に向けて自ら行動を起こし、地域の方々とコミュニケーションを取りながら、地域に貢献する活動を続けていきたい。
- また、来年度は新規事業の指定を受けていることを機に、地域観光資源の研究や、中長期インターンシップを見据えた商品開発など、これまでの活動に深みを持たせて取り組みたい。